



長島城跡地に建つ長島中学校



「長島の大松」



「又木茶屋」

大智院と光栄寺に別れを告げた後は、東へと方向を変えて、長島城跡へと向かいます。戦国時代当時、町内北に位置する杉江地区には、石山本願寺の末寺・願證寺（しやうじ）があり、東海地方の一向宗（浄土真宗）の中心的存在となっていました。織田信長は、抵抗を繰り返す長島の一向宗門徒に対して、自ら兵を率いて攻撃。1回目の元龜げんき2（1571）年と2回目の天正元（1573）年は信長側が敗北しました。そこで満を持して3回目の攻撃を行ったのが、同2（1574）年のことでした。門徒たちは長島城を本城

として戦い、3か月にわたる籠城戦ろうじょうせんを耐え抜きましたが、遂に降伏。この時、2万人以上が悲惨な最期を遂げたと伝わります。

壮絶な戦いの舞台となった長島城は、幾多の変遷を経て江戸時代には長島藩（2万石）藩主の居城となりました。現在、跡地には長島中学校と長島中部小学校が建ち、樹齢3百数十年以上と伝わるクロマツの大樹が、子どもたちの成長を見守ってくれています。

「長島の大松」と呼び親しまれるクロマツの堂々とした姿を眺めた後は、一揆

長島城の大手門と沓くつろぐをはいた地蔵尊

願證寺で、一揆の犠牲となった門徒たちに想いを馳せた後は、青々とした稲穂が風にそよぐ様子を眺めながら、北へ向かいます。近鉄「長島駅」への帰り道に見逃せないのが、蓮生寺れんせいじと光岳寺です。蓮生寺の山門（薬医門）は、明治9（1876）年に払い下げられた長島城の大手門で、控え柱の上にある瓦を見ると、藩主増山家の家紋が彫られているのが確認できました。一方、光岳寺は徳川家康

情報交流、休憩施設でくつろぐ

「又木茶屋」は、郷土の画家 佐藤 昌胤しやまひん 画伯の生前の屋敷を整備した情報交流施設で、食事や喫茶ができます。敷地内には画伯の愛したツバキが多数あるほか、秋の紅葉も見応えがあります。一方「長島水辺のやすらぎパーク」は、江戸時代に長島藩の重職にあった久我家くぐがの邸

の母おだ於大の方の菩提寺です。門前の地藏堂には伝教大師でんけうだいし（最澄さいしょう）の作と伝わる沓くつろぐ履子安延命地蔵尊あやのぢやうめいじやうぞんが祀られています。沓くつろぐをはいた珍しい地蔵尊で、秘仏のため、普段は厨子ずしの中に安置されています。

光岳寺から近鉄「長島」駅までは、徒歩数分の距離。一見のどかな田園風景や静かな住宅地が広がる中、さまざまな歴史を秘めた旧跡や文化施設が点在する長島の散策は、これで終了です。

問 「桑名歴史案内人の会」

（桑名市物産観光案内所）

TEL 0594-211-5416



「長島水辺のやすらぎパーク」



願證寺



蓮生寺山門



光岳寺地藏堂内部の様子

宅を改修した休憩施設。4月からゴールデンウィークごろまでは、色鮮やかなボタンの花が楽しめます。両施設で十分くつろいだ後、願證寺へ。「長島一向一揆」の際に杉江地区にあった願證寺は、現在は長良川の底に沈んでいます。しかし、江戸時代になると、門徒のために又木地区に祐泉寺が建てられ、明治9（1876）年に正式に願證寺を名乗ることになりました。ここでは、昭和50（1975）年に一揆の400年の追悼法要が行われ、「長島一向一揆殉教之碑」が静かにたたずんでいました。